

- C 358. *井上久幸・松枝秀和・杉村行勇 (気研・地球化学): 筑波, 気象研究所露場において観測された CO₂ と CH₄ の日変化について
- C 359. *高田久美子・村松久史(京大・防災研): 大気中メタン濃度の地上観測結果
- 座長 佐々木 徹
- C 360. 村松久史 (京大・防災研): 成層圏から対流圏へのオゾン流入の経年変化
- C 361. 佐藤公喜 (愛知県公害調査センター, 名大・水圏研): 成層圏オゾンの対流圏における輸送過程の解析
- C 362. *古橋規尊 (富士通 FIP 株): 村尾直人・太田幸雄・溝口 勲 (北大・工): 札幌における春季のオゾン濃度(Ⅲ)——流跡線解析——
- C 363. *村尾直人 (北大・工), 古橋規尊 (富士通 FIP 株), 太田幸雄・溝口 勲 (北大・工): 春期にみられるオゾン濃度と気温の関係について
- C 364. 松原広司・土井元久・上窪哲郎・岡田憲治 (気象庁・観測), *川口貞男・青木周司 (極地研): 赤道域から南極域までの船上オゾン観測 (Ⅱ)——オゾン鉛直分布の緯度変化——
- C 365. 関口理郎 (気象協会): 南極昭和基地上空のオゾン量と太陽黒点
- C 366. 忠鉢 繁 (気研・物理): 南極昭和基地におけるオゾンの変動と成層圏高層風との関係
- C 367. *川平浩二(富山高専), 近藤幸治(高層気象台), 岩坂泰信 (名大・水圏研): 南極域圏界面高度の年々変動——オゾンホールとの関係について——
- C 368. 川平浩二 (富山高専), 廣岡俊彦 (気大): 南極オゾンホールと気温変動の相互関係
- C 369. *近藤幸治 (高層気象台), 岩坂泰信 (名大・水圏研), 川平浩二 (富山高専): 南極成層圏オゾンの変化と気温変化の間にみられる対応
- C 370. *岩坂泰信 (名大・水圏研), 近藤幸治 (高層気象台), 川平浩二 (富山高専): 南極成層圏のオゾン減少と気温変化——エアロゾル形成領域との対応——

日本気象学会および関連学会行事予定

行 事 名	開 催 年 月 日	主 催 団 体 等	場 所	備 考
The 2nd International conference on Atmospheric sciences and Applications to Air Quality	1988年10月3日 ～7日	同国際組織委員会 国内組織委員会	日本学術会議	Vol. 34, No. 9
日本気象学会 昭和63年度秋季大会	昭和63年10月26日 ～28日	日本気象学会	宮城県民会館	Vol. 35, No. 5
第26回粉体に関する討論会	昭和63年10月27日 ～29日	同討論会	石川県社会福祉会館	Vol. 35, No. 4
大型レーダー国際学校	昭和63年11月24日 ～28日	京都大学超高層電波研究センター	京都市・烏丸京都ホテル	Vol. 35, No. 4
第2回 WCRP シンポジウム	昭和63年11月28日 ～30日	WCRP 協議会	京都大学楽友会館	
第10回風工学シンポジウム	昭和63年12月1日 ～2日	同運営委員会	東京・中央大学理工学部	Vol. 35, No. 4
風に関するシンポジウム	昭和63年12月9日	日本農業気象学会	つくば市・農業環境技術研究所	Vol. 35, No. 6
月例会「レーダー気象」	昭和63年12月20日		気象庁	Vol. 35, No. 7
第3回「大学と科学」公開シンポジウム	昭和64年1月30日 ～2月1日	同組織委員会	経団連ホール	Vol. 35, No. 9